

# ～教員おすすめ本～

No. 32

文芸学部 教養・基礎教育部門

中野 徹



## 『中国メディアの現場は何を伝えようとしているのか ：女性キャスターの苦悩と挑戦』

柴静 著

鈴木将久・河村昌子・杉村安幾子 訳

### 【先生からのコメント】

日本では、中国には報道の自由がない、とよく言われます。たしかに、中国では Twitter や LINE は使えません。しかし、中国独自の SNS は発達していますし、現場のマスメディア関係者が何も考えていないわけではありません。

本書は、CCTV（中国中央電視台）の人気番組「看見」の元キャスターである柴静氏によるルポルタージュであり、体制のなかにいるジャーナリストが、SARS や大気汚染、DV などの社会問題を取り上げ、中国社会に警鐘を鳴らした問題作です。中国だけに限らず、メディア報道がもたらす人々の葛藤という普遍的問題をも考えさせられる一冊です。中国のジャーナリズムに関しては、福島香織『中国のマスゴミ』（扶桑社新書、2011）があります。あわせて読んでみよう。



## 『現代中国経営者列伝』

高口康太 著

### 【先生からのコメント】

中国・新興国に関する情報サイト「KINBRICKS NOW」の管理人であり、気鋭のチャイナウオッチャーとして知られる高口康太氏による、中国「面白い」本。

中国経済について、「GDP 世界第二位」、「経済成長がすごい」、「バブル崩壊でだめ」、「米中経済戦争で厳しい」と、毀誉褒貶、さまざまなことが言われます。中国経済は、中国企業のたゆまぬ努力や、そこで働く無数の人たちが支えています。本書は、アリババのジャック・マー（馬雲）をはじめ、中国経済躍進の立役者である起業家たちの伝記であり、彼らの素顔や人生哲学を活写しています。風雲児たちの一代記を読みながら、激動の中国の一面を知ることができます。現代中国理解のための必読書です。

2019年7月26日  
近畿大学中央図書館